

## 2 高齢者が活躍できる社会づくりプロジェクト

### 政策目標の概要(A)

高齢者がその大きな可能性や潜在力を発揮して、さまざまな分野において積極的に社会参加・社会貢献し、地域の「支え手」として活躍できるよう県全体で応援する社会づくりに取り組む。また、就労意欲の高い高齢者が、その働く意欲や能力を発揮できるよう支援する。

主な取組 (B)	施策 (C)	事業 (D)	個別事業(E)										決算額 H24 決算 (千円)	事業の評価と改善の方向性(H26年度予算への対応)						
			個別事業名 (予算上の事業または事項)	新規 /再掲	担当部局	担当課	個別事業概要	成果(結果)を示す項目	目標・指標					予算額		H24事業結果	部局評価		財政課評価	
									実績値 (過去3年間)		目標値			H24 当初 (千円)	H25 当初 (千円)		評価 区分	評価の考え方	評価 区分	評価の考え方
									H22 H23 H24	H24 (前年度)	H25 (当年度)	H27 (総合計画 終期)								
<b>1 高齢者の活躍への導入支援</b>																				
<b>(1)高齢者の活躍のきっかけづくり</b>																				
■ 高齢者に対する普及・啓発活動などを通じて、社会参加のためのきっかけづくりに努めます。																				
			健康福祉部	介護高齢課 (企画係)	シニア世代が自身にあった社会貢献等の活動を行うことができるよう、様々な活動メニューを提供する講座等を開催し、社会参加のきっかけづくりを行う。 (シニア傾聴ボランティア育成支援、シニア健康づくりリーダー育成講習会、シニアの社会生活支援講習会、世代間交流のためのコミュニケーション講座、団塊シニアのためのアクティブライフ講座、全国健康福祉祭選手派遣事業、ぐんまねんりんピック開催など)	各種事業参加者数	H22 : 2,553人 H23 : 2,426人 H24 : 2,823人	2,650人	2,700人	2,800人	11,341	9,922	9,891	シニア向け各種講座の開催 735人 全国ねんりんピック大会派遣131人 ぐんまねんりんピック開催1,957人	4	長寿社会づくり財団は、明るく活力ある社会づくりに向け、高齢者の生きがいと健康づくり事業等を推進する中核的組織であり、今後もより効果的な手法を検討しつつ、継続して事業に取り組む必要がある。	4	高齢者が生きがいを持って健康に暮らせるよう、より高齢者が主体となって参画できるような工夫をしながら、継続。		
■ NPOやボランティアなどの市民活動に関する相談に応じ、情報提供を行います。																				
			生活文化スポーツ部	NPO・多文化共生推進課	特定非営利活動促進法の適正な施行、NPO・ボランティアに関する相談や情報提供、団体の基盤強化を目的としたセミナーなどを行い、市民活動を支援する。	サロンへの相談等件数(NPOやボランティアに関する電話・来所相談)	H22 1,665件 H23 1,497件 H24 1,441件	1,600件	1,600件	1,600件	8,220	7,300	8,110	NPO・ボランティア活動等に意欲を持つ県民に的確に情報、参加機会を提供し、ボランティア活動の参加者を求めている団体等とのコーディネート業務等を実施した。 また、情報誌「ブリーサ」の発行(年4回)、NPO関係者等を対象とした、市民力養成講座及び地域連携セミナー等を開催することにより、情報発信や団体の運営基盤の充実を図った。	4	24年度の事務・事業見直し委員会の結論を踏まえ、25年度から市町村の市民活動支援センターでは、対応が困難な広域的・専門的な支援や同センターの対応力向上のための支援を開始した。 市民活動支援センターは、市民活動を活性化していく上でさらに活躍することが期待されており、同センターの育成や機能強化を図っていく必要がある。 このため、NPO・ボランティアサロンぐんまが蓄積してきたノウハウを活用したサポート(支援策)を効果的に実施していく。	4	市民活動の促進やNPO法人の運営に係る相談、情報提供を行うため、継続。 県内NPO支援の中核として、市町村支援センターにノウハウを伝達することで、市町村のレベルアップを図る。		
			健康福祉部	健康福祉課	ボランティア活動等に関する相談・紹介のほか、養成講座及び研修会の開催並びに啓発・情報提供などを行い、ボランティア活動等を全般的に支援する。	①市町村災害ボランティアセンター設置訓練数 ②県内ボランティア活動者数 ③ふれあいいきいきサロン設置か所数	① 5人 ②H23.3.31現在数 : 149,293人 H24.3.31現在数 : 177,064人 ③H23.3.31現在 : 1,745か所 H24.3.31現在 : 1,879か所	①8か所 ②184,000人 ③2,000か所	①15か所 ②222,000人 ③2,150か所	①35か所 ②300,000人 ③2,500か所	12,540	12,868	12,426	ボランティアセンターの運営を通して、ボランティアに関する相談、関係機関の連携調整を行った。 災害時のボランティアの調整等を行う災害ボランティアセンターの設置訓練を5カ所で実施した。 身近な地域における居場所づくりとして、「ふれあいいきいきサロン」の普及啓発に努めた。	4	大震災が予想される中、特に災害発生時におけるボランティアの重要性は増している。また、地域のつながりが薄れる中、身近な地域での居場所づくりは地域福祉向上のため重要である。 以上のことから、継続して育成、普及及び啓発に努める必要がある。	4	ボランティア活動を支援するため、ボランティア活動のコーディネートやボランティアの養成・研修が重要であり継続。		
<b>(2)高齢者が活躍できる社会づくりの普及啓発</b>																				
■ 高齢者が活躍できる社会づくりに関する県民意識の醸成を図ります。																				
			健康福祉部	介護高齢課 (企画係)	元気な高齢者の活躍の場を提供する様々なイベントを通して、明るく活力ある長寿社会づくりに向けた気運を醸成する。(ぐんまときめきフェスティバル、長寿社会・私のメッセージコンクール、情報誌「ときめき群馬」発行など)	①ぐんまときめきフェスティバル参加者数 ②長寿社会・私のメッセージコンクール応募者数	① H22 : 1,000人 H23 : 1,685人 H24 : 1,879人 ② H22 : 911人 H23 : 746人 H24 : 708人	2,050人	2,100人	2,300人	7,650	7,067	6,589	ぐんまときめきフェスティバルの開催 長寿社会・私のメッセージコンクールの開催 情報誌「ときめき群馬」を年3回発行(1回15,000部)配布先は、老人クラブ、シルバー人材センター、金融機関、医療機関等)	4	団塊の世代が高齢期にさしかかり、本県は間もなく、県民の4人に1人以上が高齢者である「超高齢社会」を迎えることとなる。明るい長寿社会の実現に向けての気運の情勢や高齢化に関する情報提供がより重要となるため、今後も継続して事業に取り組む必要がある。	4	元気な高齢者が活躍できるイベント等に、より高齢者が主体となって参画できるような工夫をしながら、継続。		
<b>1 高齢者の活躍への導入支援 小計</b>												<b>37,157</b>								
<b>2 高齢者の社会参加・社会貢献の促進</b>																				
<b>(1)高齢者の社会参加・社会貢献の支援</b>																				
■ ボランティア活動などの実績を評価する仕組みとして「群馬はばたけ通帳(仮称)」制度の導入を検討するなど、高齢者の社会貢献を奨励し、意欲を持って活動に参加できるよう応援します。																				
			健康福祉部	介護高齢課 (企画係)	高齢者の社会参加を推進するため、介護保険制度を活用した、「介護支援ボランティアポイント制度」を基本的な枠組みとした、本県独自の新たなボランティア制度の仕組みを市町村とともに推進する。	実施市町村数	H24 1市町村 (制度運用初年度)	7市町村	10市町村	18市町村	332	249	68	今年度実施中の桐生市との連絡調整。ポイント冊子を作成した。 次年度以降の制度導入について、市町村に説明した。	3	平成25年度に新規ボランティアポイント制度を始める市町村のポイント還元が始まり、平成26年度の新規市町村の導入準備もあることから、拡充が必要である。	4	高齢者の社会貢献を奨励するとともに介護予防を推進するための制度であり、継続。 本制度の充実を図るため、参加市町村数を増やす方策の検討が必要。		

【「はばたけ群馬プラン」重点プロジェクト推進シート】 <PJ2>2

主な取組 (B)	施策 (C)	事業 (D)	個別事業(E)										決算額 H24 決算 (千円)	事業の評価と改善の方向性(H26年度予算への対応)							
			個別事業名 (予算上の事業または事項)	新規 /再掲	担当部局	担当課	個別事業概要	成果(結果)を示す項目	目標・指標					予算額		H24事業結果	部局評価		財政課評価		
									実績値 (過去3年間)		目標値			H24 当初 (千円)	H25 当初 (千円)		評価 区分	評価の考え方	評価 区分	評価の考え方	
									H22 H23 H24	H24 (前年度)	H25 (当年度)	H27 (総合計画 終期)									
			「ぐんまちよい得シニアバスポート事業」推進	健康福祉部	介護高齢課 (企画係)	高齢者が地域との交流を図りつつ、自ら活動し続けるきっかけとするため、「ちよい得キッズバスポート」のシニア版を作成し高齢者の積極的な外出を促すとともに、地域とのつながりの強化や健康維持を図る。	協賛店舗数	H24: 1,114店舗 (H25.1.15~制度開始)	制度設計 2,000店舗	2,200店舗	3,000店舗	2,721	1,000	3,130	4	「ぐんまちよい得シニアバスポート」の配布を始めたばかりであり、引き続き配布や協賛店舗の募集を行う必要がある。	4	高齢者の外出を促し、地域交流や健康維持を図る事業であり、継続。「ぐんまちよい得キッズバスポート」との連携を強化し、効率的・効果的な事業実施に努める必要。			
<p>■ シニア就業支援センターにおいて、地域活動などに関する相談、情報提供を行います。</p>																					
			シニア就業支援センター運営	産業経済部	労働政策課	中高年齢者の再就職や多様なニーズに対応した相談・情報提供の機能に加え、職業紹介の実施によるワンストップサービス化を実現する。さらに、知識や技能を活かしたい高齢者とその能力を必要とする企業をマッチングする事業を実施する。	利用者数	H22: 678人 H23: 1,090人 H24: 1,249人	890人	990人	1,200人	12,000	12,000	11,732	4	(財)群馬県長寿社会づくり財団に委託し、再就職のための就職相談のほか、就業、起業、シルバー人材センターなどの多様な働き方についての相談情報提供を実施。さらに、知識や技能を活かしたい高齢者とその能力を必要とする企業をマッチングする事業を実施。	4	中高年齢者の雇用状況が厳しい中、中高年向けに特化した求人情報を集積し、きめ細かなカウンセリングを伴った職業紹介を行う本事業は、継続の必要性が高い。 また、少子高齢化に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者の豊富な知識や経験を活用するための支援も重要である。	4	依然として厳しい雇用環境の中、引き続き中高年齢者の就職支援・能力活用に取り組むことは重要。 企業側のニーズを的確に把握してマッチング率の向上に努め、より効率的・効果的な支援・能力活用が進められるよう、随時見直しを行っていくこと。	
<p>(2)社会参加の情報提供システムの構築</p> <p>■ 高齢者が自分に合った活動に参加するための情報を容易に手に入れることができるように、学習、スポーツ、ボランティアなどさまざまな団体等の活動情報を提供するシステムを構築します。</p>																					
			ぐんま元気シニア応援ネット	健康福祉部	介護高齢課 (企画係)	高齢者が自分にあった活動に参加するための情報を容易に手に入れることができるように、学習、スポーツ、ボランティア、就業など、様々な団体等の活動情報を提供するホームページを作成する。	年間アクセス数	H24: 1,987件 (H25.3.1~制度開始)	システム設計	2,500件	3,000件	300	部局予算対応	-	4	「ぐんま元気シニア応援ネット」を平成25年3月に開設。元気な高齢者が社会参加や社会貢献活動をするための情報を容易に入手できるよう、県ホームページを活用し、学習、スポーツ、ボランティアなど様々な団体の活動情報や各種イベント・講習会の開催情報等を掲載し、情報発信した。	4	平成24年度にシステムを構築したが、引き続き内容を充実させる必要がある。	4	高齢者が社会参加するための情報提供が必要であることから継続。ただし、現状は各圏域の市町村、社協ホームページへのリンク集であることから、各市町村等の協力を得て、社会参加や社会貢献活動情報に特化した内容を提供する必要。	
<p>2 高齢者の社会参加・社会貢献の促進 小計 13,249</p>																					
<p>3 高齢者の働く意欲や能力の活用支援</p>																					
<p>(1)高齢者の就労支援や技能の活用</p> <p>■ シニア就業支援センターにおいて、高齢者の意欲と能力の発揮に向け、就労の支援をします。</p>																					
			シニア就業支援センター運営	再掲	産業経済部	労働政策課	中高年齢者の再就職や多様なニーズに対応した相談・情報提供の機能に加え、職業紹介の実施によるワンストップサービス化を実現する。さらに、知識や技能を活かしたい高齢者とその能力を必要とする企業をマッチングする事業を実施する。	利用者数	H22: 678人 H23: 1,090人 H24: 1,249人	890人	990人	1,200人	12,000	12,000	11,732	4	(財)群馬県長寿社会づくり財団に委託し、再就職のための就職相談のほか、就業、起業、シルバー人材センターなどの多様な働き方についての相談情報提供を実施。 平成23年度からは新たに中高年齢者向けの職業紹介と高齢者の能力活用事業を実施した。	4	中高年齢者の雇用状況が厳しい中、中高年向けに特化した求人情報を集積し、きめ細かなカウンセリングを伴った職業紹介を行う本事業は、継続の必要性が高い。 また、少子高齢化に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者の豊富な知識や経験を活用するための支援も重要である。	4	依然として厳しい雇用環境の中、引き続き中高年齢者の就職支援・能力活用に取り組むことは重要。 企業側のニーズを的確に把握してマッチング率の向上に努め、より効率的・効果的な支援・能力活用が進められるよう、随時見直しを行っていくこと。
<p>■ 高齢者に対して、シルバー人材センターにおいて地域に密着した仕事を提供することを促進します。</p>																					
			シルバー人材センター事業補助	産業経済部	労働政策課	シルバー人材センター連合及びシルバー人材センターの運営費等に助成する。	就業延人員(人日)	H22: 900,233人日 H23: 886,699人日 H24: 924,946人日	980,000人日	1,020,000人日	1,100,000人日	23,364	17,555	23,364	4	高齢者の就業を促進するため、群馬県シルバー人材センター連合会本部分及び拠点センター分(33団体)の運営費補助金について、連合として指定を受けている(財)群馬県長寿社会づくり財団へ交付した。	4	少子高齢化の進展に伴う労働力人口の減少に対応するため、高齢者に多様な就業機会を提供する本事業の必要性は高い。	4	依然として厳しい雇用環境の中、引き続き中高年齢者の就業機会の提供・能力活用に取り組むことは重要。 H25年度当初予算で、補助単価を見直したところであるが、引き続き補助金の必要性・妥当性を検証し、適切な執行に努めること。	
<p>(2)定年帰農者等の支援</p> <p>■ 定年帰農者等の多様な人材の就農を促進するため、就農相談や研修会を開催するとともに、農林大学校等での技術習得に向けた支援により、円滑な就農を図ります。</p>																					
			農業者等研修(「ぐんま農業実践学校」推進)	農政部	農林大学校	定年帰農者や「ターン・リターン」による就農希望者等を対象に、農業の基礎的な知識・技術についての実践的な研修を行い円滑な就農を図る。	ぐんま農業実践学校受講者数	H22 152人 H23 156人 H24 135人	145人	145人	145人	3,544	3,486	3,455	4	「ぐんま農業実践学校」4課程、8コースを実施した。 受講者を対象に就農促進のためのセミナーを実施した。	4	県民の要望にあわせた研修を行い、安定的に応募がある。修了者の9割以上が就農意欲を持っており、継続実施の必要がある。	4	例年多数の応募があり、修了者の就業率も高いことから、今後も効果的・効率的な研修に努める。	
<p>(3)高齢者農業者の活動支援</p> <p>■ 高齢農業者による、直売所、量販店内の直売スペース、学校給食等を活用した地産地消への取組を支援します。</p>																					
			農業者等研修(「ぐんま農業実践学校」推進)	再掲	農政部	農林大学校	定年帰農者や「ターン・リターン」による就農希望者等を対象に、農業の基礎的な知識・技術についての実践的な研修を行い円滑な就農を図る。	ぐんま農業実践学校受講者数	H22 152人 H23 156人 H24 135人	145人	145人	145人	3,544	3,486	3,455	4	「ぐんま農業実践学校」4課程、8コースを実施した。 受講者を対象に就農促進のためのセミナーを実施した。	4	県民の要望にあわせた研修を行い、安定的に応募がある。修了者の9割以上が就農意欲を持っており、継続実施の必要がある。	4	例年多数の応募があり、修了者の就業率も高いことから、今後も効果的・効率的な研修に努める。
<p>3 高齢者の働く意欲や能力の活用支援 小計 36,527</p>																					

【「はばたけ群馬プラン」重点プロジェクト推進シート】 <PJ2>3

主な取組 (B)	施策 (C)	事業 (D)	個別事業(E)										決算額	H24事業結果	事業の評価と改善の方向性(H26年度予算への対応)							
			個別事業名 (予算上の事業または事項)	新規/ 再掲	担当部局	担当課	個別事業概要	成果(結果)を示す項目	目標・指標						予算額		部局評価	財政課評価				
									実績値 (過去3年間)		目標値				H24 当初 (千円)	H25 当初 (千円)	評価 区分	評価の考え方	評価 区分	評価の考え方		
									H22 H23 H24	H24 (前年度)	H25 (当年度)	H27 (総合計画 終期)										
<b>4 高齢者の活躍を支える体制の整備</b>																						
<b>(1)社会参加・社会貢献の総合的な推進</b>																						
<p>■ 高齢者の就労支援、生涯学習支援、生活支援などの各分野の施策を体系化し、高齢者の社会参加・社会貢献を総合的に促進します。</p>																						
						「ぐんま元気・活躍高齢者プラン」の推進	健康福祉部	介護高齢課 (企画係)	各部局が行う高齢者の就労支援、生涯学習、健康づくり等の各分野の高齢者関連施策を体系化したプランを策定し、連携のうえ推進する。	プラン掲載事業目標値(17項目)の現状比上昇件数の割合	59%	50%	70%	100% ※最終年度 H26年度	124	5	18	群馬県元気高齢者施策推進担当者会議を開催し、元気高齢者施策の進捗状況のとりまとめと、意見交換を行った。	4	関係部署が連携しながら掲げた目標達成に向け、事業を実施する必要がある。 平成26年度はプランの最終年。進捗状況の確認や3年間のとりまとめを行う。	4	高齢者が活躍できる社会の実現に向け、継続。
<b>(2)多様な分野における高齢者の活躍の推進</b>																						
<p>■ 家庭・学校・企業等における「人づくり」などの多様な分野において、高齢者のマンパワーの効果的な活用を推進します。</p>																						
						シニア就業支援センター運営	再掲	産業経済部 労働政策課	中高年齢者の再就職や多様なニーズに対応した相談・情報提供の機能に加え、職業紹介の実施によるワンストップサービス化を実現する。さらに、知識や技能を活かしたい高齢者とその能力を必要とする企業をマッチングする事業を実施する。	利用者数	H22:678人 H23:1,090人 H24:1,249人	890人	990人	1,200人	12,000	12,000	11,732	(財)群馬県長寿社会づくり財団に委託し、再就職のための就職相談のほか、就農、起業、シルバー人材センターなどの多様な働き方についての相談情報提供を実施。 平成23年度からは新たに中高年齢者向けの職業紹介と高齢者の能力活用事業を実施した。	4	中高年齢者の雇用状況が厳しい中、中高年向けに特化した求人情報を集積し、きめ細かなカウンセリングを伴った職業紹介を行う本事業は、継続の必要性が高い。 また、少子高齢化に伴う労働力人口の減少に対応するため、中高年齢者の豊富な知識や経験を活用するための支援も重要である。	4	依然として厳しい雇用環境の中、引き続き中高年齢者の就職支援・能力活用に取り組むことは重要。 企業側のニーズを的確に把握してマッチング率の向上に努め、より効率的・効果的な支援・能力活用が進められるよう、随時見直しを行っていくこと。
						シルバー人材センター事業補助	再掲	産業経済部 労働政策課	シルバー人材センター連合及びシルバー人材センターの運営費等に助成する。	就業延人員(人日)	H22:900,233人日 H23:886,699人日 H24:924,946人日	980,000人日	1,020,000人日	1,100,000人日	23,364	17,555	23,364	高齢者の就業を促進するため、群馬県シルバー人材センター連合会本部分及び拠点センター分(33団体)の運営費補助金について、連合として指定を受けている(財)群馬県長寿社会づくり財団へ交付した。	4	少子高齢化の進展に伴う労働力人口の減少に対応するため、中高年齢者に多様な就業機会を提供する本事業の必要性は高い。	4	依然として厳しい雇用環境の中、引き続き中高年齢者の就業機会の提供・能力活用に取り組むことは重要。 H25年度当初予算で、補助単価を見直したところであるが、引き続き補助金の必要性・妥当性を検証し、適切な執行に努めること。
<b>4 高齢者の活躍を支える体制の整備 小計</b>															<b>29,560</b>							